

【第1894回：R財団委員会担当例会】 令和4年3月1日

## 《ロータリー財団について》

ロータリー財団委員会委員長 米谷昌紀



## ■ロータリー財団とは

正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団」です。非営利組織で、ロータリー会員をはじめより良い世界を築こうというビジョンを共有する財団支持者の方から自発的な寄付により支えられています。寄付はロータリー財団の補助金になり、助けを必要とする地域社会に持続可能な変化をもたらす活動にやくだてられます。『世界でよいことをしよう』との理念の下、財団支援者の自発的寄付のみによって支えられています。国際ロータリーの目的を推進するための単独の信託機関として、全資産を維持、投資、管理運営しています。

ロータリークラブおよび地区を通じて実施される、承認された人道のおよび教育的活動の支援のために寄付を受け資金分配をする非営利団体運営は財団管理委員会の下行われ、財団はRIに報告義務があります。委員会の構成メンバーは15名でRI会長が理事会の承認を得て管理委員に任命、その内4名は元RI会長で管理委員長は会長歴任者の中から選ばれるのが慣例になっています任期は4年です。

クラブ会員からの寄付は、公益財団法人ロータリー日本財団を経由してロータリー財団に全額寄付されています。（財団の歴史については、先般配布されました「ロータリーの基礎」を参照ください。）

## ■寄付（資金）について

寄付の種類により、資金使途が異なります。寄付の分類は寄付者の希望によって選ぶことができます。寄付の種類については、寄付金は資金として分配され、大きく二つに分けられています。

一つは、地区財団活動資金で、地区補助金やグローバル補助金として活用されています。地区補助金は、「ロータリー財団の使命に関連したプロジェクト」および「ロータリアンが積極的に参加するプロジェクト」事業で比較的短期間、小規模なプロジェクトに使われます。クラブの継続事業でも5年に1回は申請可能（相手先、内容を刷新して）です。また、財団奨学生、奨学期間が1年から2年。奨学金は1年間の費用を支援します。研究分野・留学先は問わず、海外の大学または、大学院で学ぶ人で地区内に本籍、居住地、通学勤務地のいずれかがある場合、地域は、国内活動でも国際レベルの活動でも可能で、相手国にロータリークラブの有無を問いません。

グローバル補助金は、ロータリーの重点分野に該当し持続可能かつ成果を測定することができなければならない比較的大規模なプロジェクトに使われます。2021年7月より重点分野に「環境」が追加され7つになりました。奨学生奨学期間1年から4年。奨学金の額は留学年数にかかわらず一括、一定金額を支援します。7つの重点分野で大学院又は大学院同等以上の機関で学ぶ方、地域は、二カ国以上のクラブ又は地区が参加する国際プロジェクトのみ、ロータリークラブが存在する国または地域のプロジェクトのみを対象としています。

もう一つは、国際財団活動資金で、グローバル補助金と同額を配分したりロータリー財団直接の奉仕プロジェクトに活用されています。

## ■実際にどのように使われているか

支出は、ポリオプラス・地区補助金・グローバル補助金で前年度2790地区では23件、その内2件は当クラブで行われたカグンドゥイニ診療施設リノベーション工事と他1件が人道支援としてグローバル補助金を使用され、他に財団奨学生への奨学金として6件。

- ・災害援助補助金 コロナ関連補助金として10件
- ・その他補助金

・ロータリー平和センター以上プログラムに85%

プログラム運営・寄付推進・管理運営15%が使われています。

寄付は・年次基金30% ポリオプラス基金37% 恒久基金22% その他の基金11%です

財務的に効率のよい方法で使命遂行され財務の健全性、説明責任、透明性が評価されています。

## ■寄付の種類と寄付金額の根拠

ロータリーは、国連の決定に基づいて行動をしています。(身近なところでは、SDGs もある意味そうかと思います。)ロータリー財団(TRF)への寄付は大きく分けると、年次基金・ポリオプラス基金・恒久基金・災害救援基金・その他の基金からなりますが、ここでは代表的な年次基金とポリオプラス基金の説明をします。中でも年次基金はロータリー財団で運用され、3年後に寄付の半額が地区活動資金の一部となり、地区内クラブの活動の補助金などの原資となる寄付なので、年次基金へは毎年寄付をする事が望ましく、寄付ゼロクラブ0の達成を目指しています。当クラブでは、前期会費納入時に寄付金として、5,000円を集めています。

年次基金の金額の根拠としてロータリー財団の年次基金の目標額は、1億2,500万ドル(日本円で1ドル110円換算として、約137億5,000万円)で、この金額は国連が人道的支援で計上している数字とほぼ一緒です。この金額1億2,500万ドルを世界のロータリアンの数、約120万人で割ると、一人あたり約100ドルになります。一人当たりの寄付金額が150ドルになった理由は、その100ドルに対して、ゾーンコーディネーターが世界の地域差などを考え、それぞれの国の目標金額を定めた結果、日本においては、一人あたりの目標金額を150ドルに設定しています。

2790地区はクラブ数82で、2021年6月30日の会員数が2,733人で、合計計約41万ドルが目標です。日本全体では、会員数9万人で、1,350万ドルが目標です。前年度末2021年6月30日の実績は、柏南ロータリークラブの年次基金の寄付額はクラブ全体で、9585ドル、会員数が39人でしたので、個人平均246ドルで、目標金額の150ドルを達成して、地区82クラブ中11番目でした。因みに、他国の状況を見ると、韓国や台湾の目標金額は200ドルで、2020-2021年度の実績は日本全体が148.05ドル、2790地区が154.21ドル、韓国が275.67ドル、台湾が219.42ドルでした。また、寄付額合計の上位5か国は、1位アメリカ、2位韓国、3位インド、4位日本、5位が台湾となっております。

次にポリオプラス基金の説明ですがポリオプラスとは、1985年に設置された地球上からポリオをなくす目的のロータリー財団の事業です。プラスとは当初ポリオの他、はしか・ジフテリア・結核・破傷風・百日咳の五つの主要伝染病をプラスとして同時追放を目的にしたもので、時代とともに形は変わってきていますが、ポリオに関しては、40年の活動の結果、地球上に何百万人ものがいたポリオも、常在国はアフガニスタン・パキスタンのわずか2か国のみとなり、ポリオ根絶まであとわずかです。この寄付は、すべての子供にポリオ予防接種を行うために生かされます。ロータリー活動の第一の優先事項は、もちろんポリオ根絶です。

目標額は、ロータリー財団の寄付で5,000万ドル、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からロータリー財団が集めた寄付額の2倍の1億万ドルの上乗せがあり、合計で1億5,000万ドルです。一人あたりでは30ドル、会員数39人で、クラブとして1,170ドルが目標です。昨年度末2021年6月30日の数字では、クラブ全体で1,523ドル、地区では82クラブ中13位でした。一人あたりも目標の30ドルを超え、39ドルでした。1,500ドル以上をクリアしたので、財団より表彰を受けました。因みに、2790地区の目標額が約82,000ドル、日本全体だと約270万ドルです。昨年度末2021年6月30日の合計寄付金額は、その他の基金を含めて柏南ロータリークラブは、14,589ドル(日本円で約160万5,000円)で、82クラブ中6位でした。(恒久基金は、ロータリー財団の基本資産に組み入れ、収益のみが使用される寄付です。)

## ■財団認証ポイント

財団認証ポイントとは、年次基金またはポリオプラスを通じてロータリー財団に寄付をした方に授与されるものです。1ドルにつき1ポイントが与えられます。寄付者は、自分の認証ポイントを他の人に移譲して、自分以外の人をポール・ハリス・フェローにすることができます。財団認証ポイントは寄付者が亡くなるまで、またはポイントを使い切るまで、寄付者ご本人のものとして保存されます。

ポール・ハリス・フェロー(PHF)とは、年次基金・ポリオプラスなどで1,000ドルを寄付または認証ポイントを受領して認証額1,000ドルとなった方です。その後、1,000ドル寄付することにマルチ・ポール・ハリス・フェローとなり、達成ごとにレベルが上がります。個人が所有する認証ポイントの移譲を承認できるのは、寄付者ご本人のみです。昨年度は、浅野繁会員・大内会員・妻島会員・友野会員・戸部会員・森秀樹会員の6名が単年1,000ドル以上の寄付で、複数回目のマルチ・ポール・ハリス・フェローの認証を受けています。

また、個人が所有するポイントだけではなく、クラブが所有する認証ポイントもあります。クラブが所有する認証ポイントの移譲を承認できるのは、クラブ会長のみとなります。クラブの認証ポイントは、2021年7月現在で、15,952.85ポイントありますので、認証額が1,000ドルに近い会員はクラブの移譲可能なポイントに自分の寄付額を足すと、場合によっては少額の寄付でも、1,000ドルに到達し、ポール・ハリス・フェローに認証されますので、ご関心がある方は会長もしくはロータリー財団委員会のメンバーにお問い合わせください。

## ■ロータリーカード

その他、寄付の方法では、ロータリーカードがあります。カードの利用金額またカードの年会費の一部が自動的に「ポリオ根絶」のための資金に充てられます。ただし、これらは個人のポリオプラス基金への寄付の実績には加算されません。一方、買い物で貯まったポイントを一定の割合で、年次基金寄付に交換することもでき、こちらは個人の寄付実績に反映されます。日常生活、経済活動にロータリーカードを取り入れるだけで自動的にポリオ根絶活動への貢献ができます。

ロータリーカードはオリコの「ロータリーインターナショナルマスターカード」とダイナースの「ロータリーダイナースカード」があります。ご興味がある方は、申し込み用紙がありますので、ロータリー財団委員にお声掛けください。

## ■チャリティーイベントの紹介（チャリティーで寄付を集める方法もあります）

下記のイベントで集まったお金もロータリー財団への寄付となります。

- ・6月7日のチャリティーコンサート
- ・6月8日のチャリティーゴルフコンペ

## ■まとめ

今まで、お話したように、ポリオ根絶など「世界で良いこと」をするための活動や、補助金を使ってクラブの活動をするには、ロータリー財団への寄付が必要です。

当クラブの補助金を使った最近の事業は、地区補助金では、

2017-18年度(小林年度)は、独居老人へお花を贈る「ふれあい訪問」

2018-19年度(岡田年度)は、米山奨学生及び外国人留学生との日本文化ふれあい交流

2019-20年度(櫻井年度)は、ケニアの子供たちに異国の文化と音楽を伝える活動

2020-21年度(浅野年度)は、カグンドウニ診療施設のリノベーション工事

2021-22年度(齋藤年度)は、とうかつ草の根フードバンク支援プロジェクト

を行っており、次年度の吉川年度も地区補助金を申請予定です。またグローバル補助金は、2020年度～、人道的プロジェクトの「母子の健康」を重点分野とした「カグンドウニ診療施設の設備」提供を行って、2月末に無事に報告書を提出しました。

それらの活動をするためにも、2790 地区からの目標金額とされている、年次基金として一人当たり150ドル以上、クラブ全体で 5,850ドル(日本円で約 643,500 円)、ポリオプラスへは一人当たり30ドル以上、クラブ全体で 1,170ドル(日本円で約 128,700 円)、合計で約 772,200 万円以上の寄付が必要です。

全ての寄付金は、ロータリー財団で運用し、年次報告書に掲載されています。ロータリーの資金はすべて、ロータリー財団の投資委員会の管理のもとにプロの投資マネージャーが運用しています。3年前の年次基金を、シェアシステムという仕組みで、地区財団活動資金(DDF)(District Designated Fund)と国際財団活動資金(WF)(World Fund)に 50%ずつ分配し、寄付の活用法をシェアして決定し、残金はすべて繰越金に回し、適正な使い方をしていきます。そのため、外部の独立評価機関より、財務健全性、説明責任、透明性が高く評価されています。

本来であれば、このような状況や仕組みをお一人お一人に詳しく説明し、理解していただき、皆様に寄付を募るのが筋かと思いますが、今年もコロナ禍の為、昨年同様にクラブから余剰金を寄付に回していただき、目標金額をクリアしたいと思っておりますので、皆様のご理解・ご了承を頂けたらありがたいです。

以上、つたない説明となりましたが、これで、ロータリー財団委員会の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



今回の例会を担当されたロータリー財団委員会の森三枝委員(左)と米谷昌紀委員長

<注：写真撮影時のみマスクを外しています>